現代日本学各論 III ／現代日本学社会分析特論 I「現代日本における家族と人口」

第 6 講　近代化にともなう社会変動

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[**テーマ**]　「近代」社会の性質と、そのなかでの家族の変動

1　中間試験について

20 点満点 (各 10 点)

- 「結婚」制度はなぜ存在するのか
- 妊娠期間の数えかたについて
- 「多産少死」「少産少死」の意味

2　課題

近代以降 (日本では明治以降) とそれ以前の社会とでは、社会制度はどのようにちがうか。特に家族に着目したときにはどのようなちがいがあるか。

3　前近代から近代へ

近代化 (modernization)

- 政治面の変化: 国民国家; 民主化; 福祉国家
- 経済面の変化: 分業と市場経済の発達; 産業化; 雇用労働者化
- 生活様式の変化: 合理化; 都市化; 学校教育; 家族の機能縮小

近代化する社会における前近代的セクターと近代的セクターの併存 (二重システム = dual system)

- 都市 vs. 村落
- 雇用者 vs. 家族経営的自営業

近代化が進展する途上を「前期近代」、社会のほぼ全体が近代化してしまったあとを「後期近代」と呼んで区別することがある。

4 「近代家族」とは

4.1 家族の機能縮小

近代以前の社会において家族が果たしてきた主要な社会的機能 (social function) としてはつぎのようなものがある。

- 家業の経営 ▼
- 扶養と safety net ▼
- 生活の協同 (居住・家計・家事)
- 生殖
- 子供の教育▼ と社会化 (socialization)
- 親密な人間関係

近代化とともに、家族の機能は少なくなってきた (▼印のものが縮小)。この機能縮小の過程は、日本社会では、20 世紀はじめごろから、都市部のサラリーマン層で進展した (教科書 pp. 32–36)。日本社会全体にひろまるのは高度経済成長期 (1970 年代ごろまでにほぼいきわたる)。

4.2 近代家族と家族問題

近代家族は、近代化に適応してできた合理性を持つ家族制度である。

- 産業化した社会のなかで「労働力の再生産」を担う集団
- 初期段階の子供の社会化
- 家族を単位とした生活保障システム

他方、この制度にはさまざまな問題もある。「家族問題」とされる現象のほとんどは、近代家族の特徴に関係している

- 市民社会の原理 (自由と平等) との齟齬: 特に性別役割分業と男女平等の関係 → 女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法
- 情緒的親密さと暴力のコントロール: ドメスティック・バイオレンスと虐待の問題
- 人口の再生産: 未婚化と少子化